

Win11版

ユーザーズ・ガイド

Version 1.0.1

一般的な注意

- 1. 本書の内容の一部または全部の無断転載・無断複写を禁止します。
- 2. 本書の内容は予告無しに変更することがあります。
- 3. 運用した結果の影響につきましては、本書の内容に関わらず、責任を負いかねますので ご了承ください。
- 4. 本書によって、工業所有権その他の権利の実施に対する保証、または実施権を許諾するものではありません。 また、本書の掲載内容の使用により起因する工業所有権の諸問題については、当社は一切その責任を負うこ とはできません。
- 5. 製品内部の改造が行われた場合、当社は一切責任を負うことはできません。

商標について

本書中、以下は各社の商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Internet Explorer は、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録 商標または商標です。

Citrix、Citrix XenApp、Cirtix MetaFrame、ICA、Citrix Presentation Server は Citrix Systems, Incの商標 または登録商標です。

VMware、VMware Horizon、VMware Horizon Clientは米国VMware,Incの米国およびその他の地域における VMware 商標および登録商標です。

IBM は IBM Corporationの米国およびその他の国における商標です。

その他、本資料に記載の各名称は一般に各社の商標または登録商標です。

第1.0.1版2025年7月



このマニュアルは、製品の改良その他により適宣改訂されます。 本ソフトウェア、およびマニュアルの一部、または全部を無断で複製することはできません。 ©2005,2025 JBCC Corporation

はじめに

この度は、SecureTerminal Win11版をお買い上げ頂きましてありがとうございます。 本マニュアルは、SecureTerminal Win11版用のものです。当社から新たなマニュアルが提供されるまでは、本 書が適用されます。 なお、本書内では SecureTerminal Win11版は以降、クライアント又は本製品と表記します。

本書が適用される機種は以下の通りです。

・ SecureTerminal T9196 シリーズ

一般的 商標に はじめ	な注意 ついて に	i i ii
目 1章	1 概要	2
	1.1 製品概要	2
	1.2 ファイルシステム	2
۰ مر	1.2.1 フラッシュディスク (C:) 1.2.2 一時 RAM ディスク(Z:) 1.2.3 ネットワークドライブ	2 2 3
2早		4
	2.1 ロクオンアカウント	4
	2.2 ログオン	4
	2.3 WES 管理	5
	2.3.1 自動ログオンユーザー	6
	2.3.2 ディスプレイのカスタマイズ	7
	2.3.3 コンピューターの管理	7
	2.3.4 SNMP 管理ユーティリティー	8
	2.3.5 USB ストレージ制御	9
	2.3.6 RAM ディスクのプロパティ	10
	2.3.7 UWF 構成ユーティリティー	11
3章	アプリケーション	13
•	3.1 新規アプリケーションのインストール	13
		11
	- 3.2 ドレド ノノイナント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14

1章 概要

1.1 製品概要

SecureTerminal Win11版は、Windows 11 IoT Enterprise 搭載のシンクライアント端末です。Microsoft RDP(Remote Desktop Protocol)、Microsoft Edge などの複数のクライアントソフトウェアが標準で組み込まれています。

このユーザーズ・ガイドでは、Secure Terminal Win11版共通の使用方法について説明しています。

このマニュアルで説明している Windows 上での操作は、Secure Terminal で実装されている Windows 上のユニークな設定項目や機能についてのみとなります。

その他の Windows 上の操作は一般的な PC 上の Windows 11 と同様です。 これらの操作に関しましてはマイクロソフト社の資料や出版物を参照してください。

個々の製品におけるハードウェアの概要、各部名称などについては、各製品同梱のクイックスタートガイドを 参照してください。また、このユーザーズ・ガイドでは、ホストエミュレーターを除くクライアントソフトウ ェアについて説明しています。 ホストエミュレーターに関しては、次の各ホストエミュレーターのユーザーズ・ガイドを参照してください。

1. TermPro をご使用の場合:「*Secure Terminal*: TermPro ユーザーズ・ガイド」

2. FALCON をご使用の場合:「*SecureTerminal*: FALCON for APTi ユーザーズ・ガイド」

これらのユーザーズ・ガイドは、当社ホームページからダウンロードできます。

1.2 ファイルシステム

DOM (Disc on Module :以下フラッシュディスクと記述) 領域は、OS 領域として C:ドライブに割り当てられています。 また RAM 領域の一部は Z:ドライブに RAM ディスク(仮想ディスク)として割り当てられています。 実メモリーを仮想ディスクとして割り当てているため、実際に利用可能な領域は、実際の実メモリーより少なくなります。

1.2.1 フラッシュディスク (C:)

フラッシュディスク(C:) には、オペレーティングシステム(Windows 11 IoT Enterprise)と標準で搭載されている各種アプリケーションが格納されています。フラッシュディスクは、管理者権限を持つアカウント以外がログインした場合には、通常書き込み保護されており、書き換えができません。管理者権限を持つアカウントでログインした場合は、Windows 10 で動作する一部のアプリケーションやデバイスドライバーなどをインストールすることが可能です。なお、出荷時での空き容量は機種によって異なりますのでご注意ください。アプリケーションやドライバーの導入に際しては、「3.1 新規アプリケーションのインストール」を参照してください。

1.2.2 一時RAMディスク(Z:)

ー時RAMディスク(Z:)は、RAMを仮想ディスクとして割り当てているため、クライアントの電源をOFFまたは、 再起動すると消去されます。保存する必要のあるデータはこのドライブを使用しないで下さい。 フラッシュディスクに恒久的に保存する必要のない、各種アプリケーションの一時ファイルやインターネットの一時キャッシュなどに使用します。

詳しい設定方法は、「2.3.6 RAM ディスクのプロパティ」を参照してください。

1.2.3 ネットワークドライブ

ネットワークドライブを使用する場合は、Administrator または管理者特権を持つアカウントでログインする 必要があります。

2章 起動と環境設定

本章ではアカウントのログオン方法および基本的な環境設定方法について説明しています。 ネットワークケーブルのプラグをLANコネクタに接続すると、DHCPサーバーを使用して自動的に起動します。

2.1 ログオンアカウント

工場出荷時にはビルトイン・アカウントとして "Admin" と "User" の 2 種のログオン可能なアカウントが初期値で設定されています。 "Admin" にてログオンすると、すべての環境設定を行うことができます。 "User" でログオンすると、インストールされたソフトウェアを使用することはできますが、環境設定などの変更をすることはできません。

この "User" アカウントへの制限により、機能を損なう恐れのある OS への変更を防止し、ウィルスによる障害やソフトウェアの誤ったインストールを防ぎます。

2.2 ログオン

出荷値の状態では、以下のアカウントが既に設定されています。

初期アカウント	アカウント名	パスワード*	権限
Admin	Admin	Admin	管理者権限アカウント
User	User	User	制限ユーザーアカウント

* パスワードは大文字と小文字を区別します。

出荷時設定では "User" で自動ログオンが設定されていますので、環境設定を行う場合は、"User" をログオ フしてから、"Admin" でログオンしなおしてください。

自動ログオンを取り消すには、『2.3.1 自動ログオンユーザー』を参照してください。

セキュリティー上、ご購入後は "Admin" のパスワードを変更してください。また、運用管理を容易にするために、同じグループの "Admin" のパスワードはなるべく同じ設定にしておくことを推奨します。

重要:

SecureTerminal XPE 版や SecureTerminal WES2009 版とはフラッシュディスクへの書込みの仕様が異なっています。設定変更を保存したい場合、必ずフラッシュディスクへの書込み(保存)が可能な状態(UWF フィルターの現在の状態が「無効」)であることを確認してから行ってください。

2.3 WES 管理

タスクトレイにある WES 管理アイコンにマウスポインタを合わせて、マウスの右クリックをすると、下記の管理メニューが表示されます。このアイコンは管理者権限を持つアカウントでログオンした場合にのみ表示されます。

- Secure Terminalの電源を立ち上げ、"Administrator" でログオンします。
 もし事前に別ユーザー名でログオンしている場合には、必ずシステムを再起動させてからログオンしなおしてください。
- 画面右下のタスクトレイから WES 管理アイコン
 を右クリックします。



- ③ 下記の WES 管理のサブメニュー画面が表示されます。
 - 自動ログオンユーザー設定(V) 設定画面のブロパティ(X) コンピューター管理(Y) SNMP管理ユーティリティー(S) USBストレージ制御(U) RAMディスクサイズのプロパティ(R) UWF構成ユーティリティー(W) メインメニューをポップアップ(Z)
 - また、上記のサブメニューの中から一番下の『メインメニューをポップアップ』を選ぶと下記の WES 管理メニューウィンドウが表示されますが、メニュー内容は同じです。

WES 管理	Х
自動ログオンユーザー設定	
設定画面のプロパティ	
コンピューター管理	
SNMP管理ユーティリティー	
USBストレージ制御	
RAMディスクサイズのプロパティ	
UWF構成ユーティリティー	
現在のライトフィルタ = [無効]	

ー部機能は設定を保存する必要があるため、フラッシュディスクへの書込み(保存)が可能な(現在の ライトフィルタ=「無効」)状態のときのみ有効になりますのでご注意ください。

以下では、これらの各メニューを使用する場合の設定方法・手順について説明しています。

2.3.1 自動ログオンユーザー

自動ログオンや強制ログオンするアカウント(ユーザー)を選択します。 初期値は、 デフォルト・ユーザー名が "User"(制限ユーザーアカウント)の自動ログオンが設定されてい ます。

重要:

SecureTerminal XPE 版や SecureTerminal WES2009 版とはフラッシュディスクへの書込みの仕様が異なっています。設定変更を保存したい場合、必ずフラッシュディスクへの書込み(保存)が可能な(現在の ライトフィルタ=「無効」)状態であることを確認してから行ってください。

自動ログオンユーザーを割り当てる	×
あなたは、自動ログオンを有効にするために、ロ グオン情報を割り当てることができます	
☑ 自動ログオンを有効にする □ 強制自動ログオン	
デフォルトのユーザー名 Admin 🗨	
デフォルトのパスワード ・・・・・	
デフォルトドメイン	
[適用する] キャンセル	

『自動ログオン許可』 チェックボックス:

自動ログオンを特定のユーザーアカウントに許可する場合に使用します。

- チェックする:デフォルト・ユーザーで指定したアカウント(ユーザー)で自動ログオンします。
- チェックしない:起動時にログオン画面が表示され、アカウント名とパスワードを要求します。

『自動ログオン強制』 チェックボックス:

デフォルト・ユーザーのアカウントで強制的にログオンさせたい場合に使用します。 このチェックボックスは『自動ログオン許可』を設定したときのみ設定が可能です。

- チェックする:ユーザーがログオフ操作を行っても、デフォルト・ユーザーで指定したアカウント (ユーザー)で強制的に立ち上がります。
- チェックしない:ログオン強制はおこなわれず、自動ログオンだけが有効になります。

強制ログオンを解除したい場合は、ログオフ時にシフトキーを押しながら操作してください。ログオン画面 が表示されます。

なお自動ログオンユーザーの設定を変更する場合には再起動が必要となるため、下記の画面が表示されますので、『OK』ボタンをクリックしてください。



2.3.2 ディスプレイのカスタマイズ

Win11版標準の『設定 - ディスプレイのカスタマイズ』画面が表示されます。 設定方法は一般の Windows 11 と同様です。

← 股定		l≥ - □ :
Admin	システム › ディスプレイ	
	明るさと色	
設定の検索	Q 液間モード 寄色の光をプロックするために、縦色を使用する	<i>ҟ</i> 7 ● >
 システム Bluetooth とデバイス 	ダ カラーブロファイル 家庭に表示される色を決定する	>
 ネットワークとインターネット 	HDR HDR 上間する評細時間	>
 アブリ アガリ 	拡大縮小とレイアウト	
 7,7,7,7,7 動物(1) 動物(1) (1) <li< td=""><td></td><td>100%(推跚) > ></td></li<>		100%(推跚) > >
 ダーム アクセンビリティ 	(D) ディスプレイの解像度 接続されているティスプレイに合うように解像度を調整する	1920×1080 (推奨) ~
 ブライバシーとセキュリティ Windows Update 	円> 画面の向き	[摸 ~
	 マルチディスプレイ ディスプレイに対してフレゼンテーションモードを選択 	~
	関連設定	
	ディスプレイの詳細設定 ディスプレイ審認、リフレッシュレート・	>
	この グラフィック	>
	関連するサポート	

2.3.3 コンピューターの管理

Win11版標準の『コンピューターの管理』ダイアログボックスが表示されます。 設定方法は一般の Windows 11 と同様です。



2.3.4 SNMP管理ユーティリティー

ファームウェアのバージョンやシアル番号を表示します。

SNMP管理ユーテ	ィリティー (2.3.17. 1	1026) 💌
サービス状況: サービスバージョン: ファームウェアバージョン: シリアル番号:	実行中 2.3.17.1122 win10-jp38a	
SNMP管理]	

『SNMP 管理…』ボタンをクリックすると、次の『SNMP 管理』ダイアログボックスが表示されます。

SNMP管理	端末情報	クラウドマネージャ	-
<u>C</u> ommunit	у р	ublic	
SNMP	管理のDHCP	オブション(<u>0</u>)	150
SNMP Adr	nin <u>I</u> P	192.168.1.40	
		SNMP V3	
ユーザ	-(<u>U</u>)		
198日) ⁽	スワード(]		1
暗号化	バスワート	·(<u>E</u>)	-

SNMP Administrator 管理ソフトウェア上で *Secure Terminal* の状況を表示させる場合、ここで設定した 『Community』情報は、SNMP Administrator 管理ソフトウェア上で設定する『SNMP コミュニティ』と 一致させておく必要があります。詳しくは SNMP Administrator 管理ソフトウェアのユーザーズ・ガイドを 参照してください。

工場出荷時のデフォルトは『Public』が設定されています。

また、ここで設定した『端末』の『ロケーション』や『フィールド』情報(テキスト情報)は SNMP Administrator 管理ソフトウェア上で参照(表示)することができます。 設置場所や使用者情報などを入力しておくと、リモート管理時に参考になります。

2.3.5 USBストレージ制御

SecureTerminalに接続する USB ストレージデバイス(USB メモリー)のアクセス制御の設定を行います。 管理者権限を持つアカウントで設定/変更を行うことができます。 設定はすべてのアカウントに対して有効になります。

重要:

設定を保存する必要があるため、この設定はフラッシュディスクへの書込み(保存)が可能な(UWF フィルターの現在の状態が「無効」)状態の時にしか選択できません。

JSBZFD-	ジ制御		X
USBストレ	ージデバ	12-	-
○使	用可能		
● 使	用禁止		
アクセス許	۴च		_
C 書	き込み詰	中可	
€読	み取り早	銅	

『デバイスの利用』

USB ストレージデバイスに対するアクセス制限の有効・無効を設定します。

- 『有効』: USB ストレージデバイスを使えるようにします。
- 『無効』: USB ストレージデバイスの利用を禁止します。(工場出荷時)

『アクセス許可』

アクセス許可の制限範囲を設定します。

このボックスは『USB ストレージデバイス』を『有効』設定したときのみ有効になります。

- 『読み書き許可』:データの読み取り、および書き込みの両方を許可します。
- 『読み取り専用』:データの読み取りのみ許可します。(工場出荷時)

『オートプレイを無効にする』 チェックボックス: 接続した USB デバイスに対し、オートプレイの通知に対するオン・オフ設定をおこないます。

	USBストレーン制御	×	
する			
_			
🚺 æ	更を有効にするに、USBストレージ	デバイスを挿入し直し	てください。
		r	in the second
			ОК
	「「自動再生通知サードス」	左 無効	OK
	ビス	を無効	

2.3.6 RAMディスクのプロパティ

RAM ディスク(Z:ドライブ)の容量を変更します。工場出荷値は128MBです。

重要:

設定を保存する必要があるため、この設定はフラッシュディスクへの書込み(保存)が可能な(UWF フィルターの現在の状態が「無効」)状態の時にしか選択できません。

🏈 RAM Diskのブロパう	F-f			×
ドライブ:	Z:		-	
ディスクサイズ:	128		•	
変更を有効にする	ためにPCを再	起動して	ください。	
8	ОК		キャンセノ	r I

ドライブ名は『Z:』(Z ドライブ) 固定で、変更できません。 設定できるディスクサイズは、4/8/16/24/32/48/64/96/128/256/512/1024 (MB)です。

RAM ディスクの設定を変更する場合には再起動が必要です。 下記の画面が表示されますので、『OK』ボタンをクリックしてください。

🗭 RAM Diskのブロバティ			×
ドライブ : 7: RAM Diskのプロパティ		×	×
変更を有効にするために	PCを再起動	っしてください。	
変更を有効にするために	PCを再起動	してください。 OK	

2.3.7 UWF構成ユーティリティー

Secure Terminal XPE版、WES2009版では、管理者権限を持つアカウントでログオンした時に、変更した 内容がシャットダウン時にフラッシュディスクへ書き込まれる仕様になっていましたが、Secure Terminal Win10版ではログオンしているアカウントに関係なく以下の状態のとき、シャットダウン時に書込み処理を 行います。

- UWF構成ユーティリティーで UWF フィルターの現在の状態が「無効」に設定されている状態のとき
- UWF構成ユーティリティーのファイル除外設定で指定されているファイル・フォルダー
- UWF構成ユーティリティーのレジストリ除外設定で指定されているレジストリ

したがって、アプリケーションソフトの導入などフラッシュディスクへの書込み(保存)を行いたい場合は、 事前に "Admin" でログオンし、UWF フィルターを無効にしてから作業を行ってください。

重要:

この設定は管理者権限を持つアカウントでのみ行えます。 XPE版、WES2009版と異なり、フラッシュディスクへの書込みができる状態に設定した場合、ログ オンするすべてのユーザーでディスクへの書込みができるようになります。

ディスクへの書込みができる状態で使用し続けることは、セキュリティーの観点からおすすめしません。 アプリケーションのインストールや設定変更を保存したら、すぐに UWF フィルターを有効にお使いく ださい。

UWF フィルターを無効にしてフラッシュディスクへ書込めるようにするには、以下の手順で設定します。

- ① SecureTerminalの電源を立ち上げ、"Admin" でログオンします。
- ② タスクトレイから「WES 管理」アイコンを右クリックします。



③ 下記(左)のWES管理のポップアップメニューから「UWF構成ユーティリティー」を選択するか、「メインメニューの表示」を選んで「メインメニュー」を表示させ、「UWF構成ユーティリティー」を選択します。

自動ログオンユーザー設定(V)	WES 管理	×
設定画面のプロパティ(X)	自動ログオンユーザー設定	
コンピューター管理(Y)	設定画面のプロパティ	
SNMP管理ユーティリティー(S)	コンピューター管理	
USBストレージ制御(U)	SNMP管理ユーティリティー	
RAMディスクサイズのプロパティ(R)	USBストレージ制御	
UWF構成ユーティリティー(W)	RAMディスクサイズのプロパティ	
メインメニューをポップアップ(Z)	UWF構成ユーティリティー	
	現在のライトフィルタ = [無効]	

④ 下記の「統合書込みフィルター(UWF)構成ユーティリティー」の設定画面が表示されます。

	現在の状態	次回の状態		
UWFフィルター	有効	有効		更
サービス状況	無効	無効	変	Ē
オーバーレイタイプ	RAM	RAM	変更	
オーバーレイ最大値	1024MB	1024MB	変]	更
警告しきい値	9216MB	9216MB	変更	
臨界しきい値	1000MB	1000MB	変更	
保護するボリューム	C:	C:	追加	削除

『UWF フィルター』

次回起動時のフラッシュディスクへの書込みの有効・無効を設定します。

- 『有効』:フラッシュディスク保護状態です。シャットダウン時に書込みは行いません。
- 『無効』:シャットダウン時に変更を書込み保存します。
- ⑤ DOM への書込み(保存)ができるようにするためには、FBWF Statusの現在の状態を「無効」にする 必要がありますので、FBWF Statusの「変更」ボタンをクリックします。
- ⑥ 下記の確認メッセージが表示されますので、「OK」ボタンをクリックしてください。

変更状況		×
UWFを無効にしますか?		
ОК	キャンセル	

⑦ 下記のメッセージが表示されますので、「OK」ボタンをクリックして再起動してください。
 OS 再起動後、DOM への書込み(保存)ができるようになります。

統合書込みフィルター(UWF)構成ユーテ ×					
設定を有効にするために再起動してください。					
UK					

3章 アプリケーション

本章では新規にアプリケーションおよびデバイスドライバーをインストールする方法、および本製品に標準 で組み込まれているアプリケーションについて説明しています。

3.1 新規アプリケーションのインストール

新しいアプリケーションやデバイスドライバーなどをインストールする場合は、"Admin"でログオンし、 「統合書込みフィルター(UWF)構成ユーティリティー」でフラッシュディスクへ書込みができるように設定 を変更してください。

注意:

フラッシュディスクの C ドライブヘインストールすることは可能ですが、インストールプログラムやインストール時の一時ファイルなどがフラッシュディスク(C:)内に残ると、ディスク容量を圧迫する場合がありますので、ご注意ください。

少なくとも本ドライブ(C:)にはインストール後に、100MB以上の空き容量を確保してください。

本製品に使用されている OS は、Windows 11 IoT Enterprise 版です。この OS は部分的に Windows 11 Enterprise と同等の機能を持っていますが、Windows 11 Enterprise の機能をフルサポートするものではありません。

そのため Windows 11 Enterprise 上では正常に動作するアプリケーション/デバイスドライバーでも、本製品上では正常に動作しない場合があります。アプリケーション/デバイスドライバーを追加導入する際には、 十分な評価/テストを行ってからお使いください。

注意:

本製品には、設定を工場出荷値に初期化する機能はありません。デフォルトの設定を変更する前に、イメージのコピーを作成しておくことをおすすめします。 バックアップイメージの作成には、SNMP 管理ソフトウェアを使用します。

※ SNMP 管理ソフトウェアの入手に関しましては、弊社の担当営業までお問い合わせください。

3.2 RDPクライアント

RDP Client は、RDP(Microsoft Remote Desktop Protocol)プロトコルを使用して、他の Windows PC の デスクトップやターミナルサーバーへの接続を可能にするアプリケーションです。

プログラム起動画面

😼 リモート デスクトップ接続	4 <u>1731</u> 9		×
リモート デスクトップ			
₩ 接続			
コンピューター(C): 例: computer.fabrikam.com	~]	
ユーザー名: 指定されていません			
コンピューター名フィールドが空白です。 リモートコンピューターの完全な名前を入力してください。			
 オブションの表示(Q) 	接続(N)	ヘルプ	(H)

*Secure Terminal Win11*版ユーザーズ・ガイド V 1.0.1

Secure Terminal についてのお問い合わせは下記までご連絡ください。

email : csc_hw@jbcc.co.jp